



学校だより

～学校評価(中間評価)特別号～

令和5年9月発行
金沢市立森本小学校

令和5年度中間期の学校評価として、児童・保護者・教職員アンケートをもとに学校自己評価を行いました。7月に実施いたしましたアンケートの結果や自己評価の結果を含めて、今後の取組についてお知らせいたします。今後の取組を進めるにあたっては、ご家庭のご協力をお願いしなければならないものもございます。本校の教育活動をご理解いただき、一層のご協力を賜りますようお願い申し上げます。

校訓
学校教育目標
目指す児童像

強き 正しき 温かき
心身ともに健全で、自ら学ぶ意欲とたくましい実践力の育成～感動を創造する～
◇よく考え進んでする子(知) ◇仲良く助け合う子(徳) ◇たくましく根気強い子(体)

今年度の重点目標

① 子どもの主体的な学習の推進②お互いの良さを認め合う温かい人間関係づくり③健全で安全な生活を過ごすための実践的な態度の育成④「チーム学校」の意識を高め、組織的な取組、協働体制の充実⑤業務適正化の推進

①子どもの主体的な学習の推進(知)

- ★森中校区における「学習の6つのやくそく」の定着
- ★根拠をもとに考え、友達と互いに考えを伝え合う授業づくりの推進
- ★一人一台学習用端末を効果的に活用した指導の実践



【結果と分析】

- ▲考えに根拠や理由が必要であるという意識は高まってきているが、根拠とつなげて考えを分かりやすく表現する力はまだ不十分である。
- 「学習の6つのやくそく」は、クラス間差が多少見られるものの、定着してきている。
- 一人一台学習用端末を活用している授業は増えており、活用した学習が楽しいと答えている児童の割合も高い。 教員アンケート R4.7 : 3.64 → R5.7 : 3.96 (満点4) 児童アンケート肯定的評価 97%
- ▲学力調査の結果から、基礎・基本の定着が不十分な部分が見られる。

【今後の取組】

- ◇話型や文例を具体的に示し、根拠を明らかにしながら分かりやすく伝える力を育てる。
- ◇もりもり漢字コンテスト等を実施し、基礎・基本の定着を図るとともに自主的に学ぶよさが実感できるようにする。
- ◇日々の実践を大切にしながら一人一台学習用端末を効果的に活用するための授業づくりをさらに進める。

②お互いの良さを認め合う温かい人間関係づくり(徳)

- ★当たり前の「さしすせそ」の習慣化
- ★たてわり活動における、自分の役割を意識した協働的な活動の実践
- ★道徳教育や人権教育等の計画的実施といじめアンケートやQU調査を活用した問題の早期発見・早期対応

【結果と分析】

- 当たり前の「さしすせそ」の取組で、教師と児童で大切にしたいことの共有化が図られた。
- 委員会や当番活動に責任をもって取り組む姿や異学年が温かくかかわり合う姿が見られている。

【今後の取組】

- ◇特別の教科道徳の授業の充実に向けて教材研究等を行い、一層の授業改善を推進するとともに、11月の学校公開で授業を公開する。
- ◇いじめ問題の早期発見・早期対応等の一層の充実を図る。

③健全で安全な生活を過ごすための実践的な態度の育成(体)

- ★毎月19日に食育指導を実施し、児童や保護者の食への関心を高める健康教育の推進
- ★体力アップ一校一プランをもとにした全校体力アップの実践
- ★避難訓練の実施を含めた、危機予測能力・事故回避能力の育成

【結果と分析】

- ▲体力テストの結果から4年男子、6年女子の体力は高いが、全学年で長座体前屈とボール投げが劣っている。
- 企業とタイアップした出前授業の実施等、食育指導の充実が図られている。

【今後の取組】

- ◇体育の時間に3分間走やもりもりハッピー体操を取り入れる等、運動する機会を増やしていくとともに体を動かす楽しさを味わうようにする。
- ◇コロナ禍で実施できなかった引き渡し訓練等を実施する。



④「チーム学校」の意識を高め、組織的な取組、協働体制の充実

- ★地域学校協働事業による外部講師や地域ボランティアとの連携の充実
- ★若手教員早期育成プログラムや中堅教諭資質向上研修などの校内OJTの充実

【結果と分析】

- 地域コーディネーターを中心とした地域学校協働事業による学習支援等多くなされている。
- ▲校内OJTを計画的に行っているが、授業力向上につなげていくにはさらなる充実が必要である。

【今後の取組】

- ◇地域学校協働事業の活動及び校内OJTの一層の充実を図る。

⑤教職員業務適正化の推進

- ★限られた時間の中で効果的な指導を行うための業務の見直し

【結果と分析】

- ▲教員自らの自己管理や定時退校に向けた業務改善の肯定的評価は低く、時間外業務時間は前年と変わらない。

【今後の取組】

- ◇効果的な指導という視点を大切にしながら、「前例踏襲は後退である」との意識をもち、一層の業務の見直しを図っていく。